

令和2年3月11日

府中市議会

議長 横田 実 様

自由民主党市政会

会長 白井 克寿

行政視察について（報告）

表題の件につきまして、次の通り報告します。

1. 日時 令和元年10月2日～令和元年10月4日

2. 視察地及び視察事項
（ア）東京都調布市
（イ）長崎県長崎市
（ウ）長崎県五島市

3. 視察者
会長 白井克寿
幹事長 増山あすか
村木茂 市川一徳 横田実 加藤雅大
佐藤新悟 松村祐樹 秋山としゆき

4. 視察内容及び所感
別紙のとおり

(ア) 東京都調布市

① 視察日時

令和元年 10 月 2 日

② 場所

調布市役所



③ テーマ

調布市における中心市街地のまちづくり

④ 視察内容

調布市においては、京王線の地下化に伴い、旧駅舎のあった場所を中心とした中心市街地のまちづくりをすすめている。本市においても府中駅を中心とした中心市街地活性化を継続してすすめており、隣接地としての相違点等を含めて視察を行った。

添付資料に従い、以下のような説明を受けた。

- ◆ 調布市の人口は 23 万 6,000 人で、今後は 24 万 1,000 人まで増加し、減少になる予測。
- ◆ 東西に京王線の鉄道駅があり、鉄道駅を中心としたコンパクトな街づくりをしている。そのうち、中心となる調布駅の乗降客数は、京王線の中で新宿に次いで 2 位。
- ◆ 南北の鉄道がないため、バスで補完している。
- ◆ 京王線連続立体交差事業については、もともとは府中市同様、高架の予定だったが、長年ストップしてしまっていた。平成 14 年に都市計画変更して駅を地下化することにした。地下化により国領駅近くの開かずの踏切を含め、18 カ所の踏切りを解消した。
- ◆ 調布駅にはトリエが開業した。開業後、調布駅の乗降客数は 5~6,000 人増えている。

説明後の質疑応答は、以下の通り。

Q 調布の駅前広場はこれからどうする予定か。

A 田中州街道にあるバス停が危険なので、ロータリーにもってくる予定。
また、現在、市民との検討会を実施中だが、木があるとイベントが開催しにくいので木を整備しなおして、たこ公園のところにプレイパークを整備予定。

Q 府中は大型バスを停めるスペースがないが、調布はどうする予定か。

A 深大寺はお店の方が確保。味の素スタジアムは専用駐車場がある。調布駅は駅前広場が完成したら観光バスもロータリーに入れる予定。

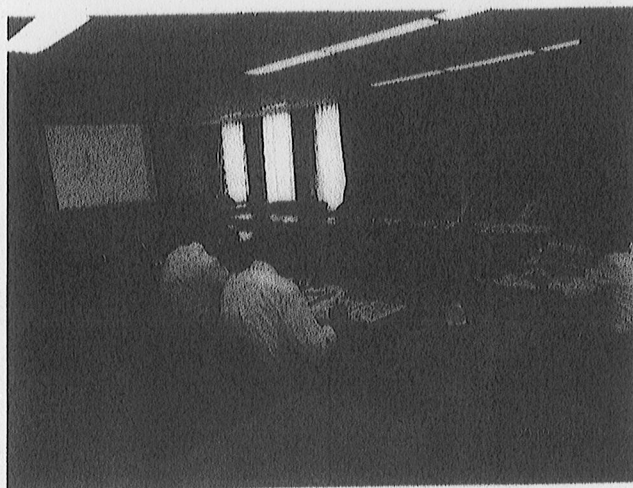
Q 駅前の放置自転車対策はどうしているか。

A 駐輪場の料金を12時間100円としていたところ、24時間100円に変更したほか、違法駐輪を厳しく取り締まっている。地下に駐輪場を整備したかったが、反対運動があり整備できなかった。

(5) 所感

長年ストップしてきた京王線の調布駅周辺地下化が、早いスピードで達成できた背景がわかった。府中市においては、府中駅だけは高架が完了したが、その後はストップしたままで、踏切での事故も発生している状況であり、その他の駅についても立体交差事業の推進が必要であることを痛感した。

また、地下化したことによって生まれた新たな空間は、市民が集まる広場に整備したということで、府中駅のロータリーとの違いを考えさせられた。



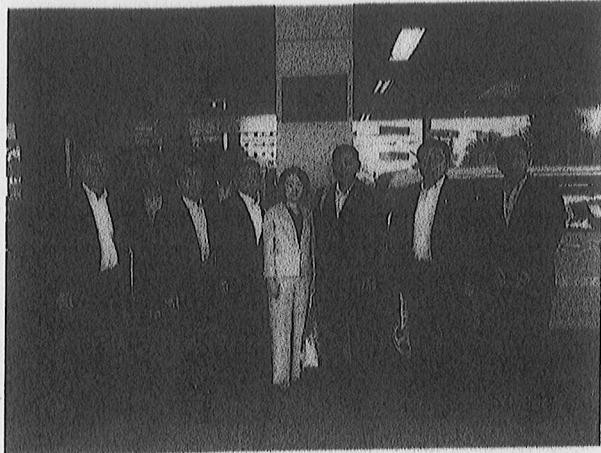
(イ) 長崎県長崎市

(1) 視察日時

令和元年10月3日

(2) 場所

長崎市役所



(3) テーマ

長崎市老朽危険空き家対策事業について

(4) 視察内容

府中市では、昨年から2021年までの「空き家等対策計画」を策定し、空き家問題について取り組みをスタートした。既に何年も前からこの問題に取り組んでいる長崎市の先進的な手法について視察を行った。

添付資料に従い、以下のような説明を受けた。

- ◆ 長崎市は「消滅都市」と言われており、少子高齢化が進み空き家の課題が深刻化している。その背景には、造船業の衰退があり、一時期は1万6000人ほどいたものの、現在は3000人程度になってしまった。しかしながら一方で、観光業に力を注いでおり、いくつか世界遺産に登録されるまでになった。
- ◆ 老朽化した危険な空き家の対策として、市税等の滞納がないことを前提に、所有者から土地と建物を寄付してもらい、市で取り壊して整備することを始めた。建物を取り壊した跡地は、スポットパークやごみ置き場、駐車場などに整備し、市民に活用してもらっている。

説明後の質疑応答は、以下の通り。

Q 何件くらい申し込み・実績があるのか。

A 平成19年から始めて、560件の申し込みがあり、51件除去している。申し込みのうち、断った案件の理由は、あまり老朽化が進んでいなかったことや、立地条件、抵当権がついていた、等がある。

Q 寄付ではなく、買取してほしいという要望はないのか。

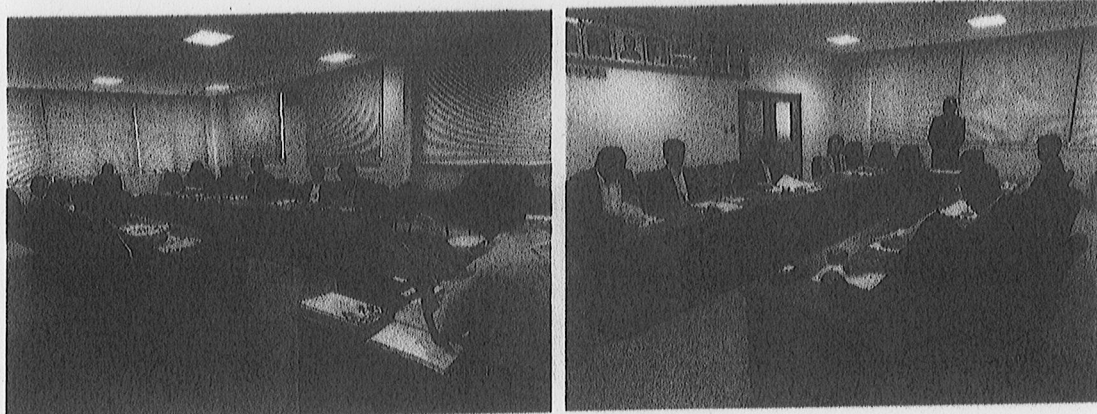
A そもそも土地・建物を維持管理するお金がないという案件が多い。寄付してもらうことが特徴の事業であり、申し込みも多い。

Q 市が把握している空き家の数はどのくらいか。

A 空き家の総数は把握していないが、危険な空き家の数は令和元年 8 月末で 1,214 件。

(5) 所感

相続が発生した場合、市への買取請求ではなく、たとえ寄付であったとしても土地建物を維持できない状況が多く発生していることが分かった。府中市においては、土地の値段も高く、また、倒壊が懸念されるほど老朽化し放置された建物はないが、今後の状況次第では、長崎市のような取り組みも必要であることが参考となった。



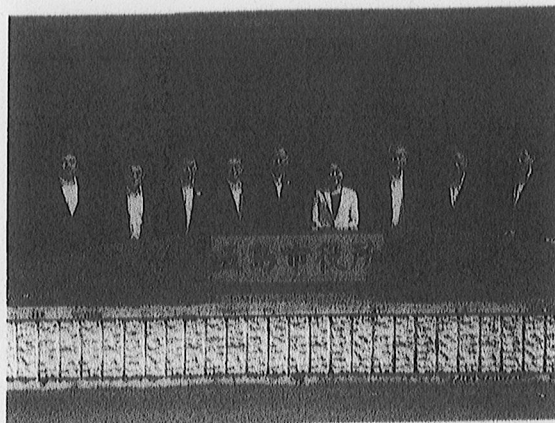
(ウ) 長崎県五島市

(1) 視察日時

令和元年10月4日

(2) 場所

五島市役所



(3) テーマ

(a) 潜伏キリシタン関連遺産に係る取り組みについて

(b) スポーツ合宿誘致について

(4) 視察内容

(a) 添付資料に従い、以下のような説明を受けた。

- ◆ 世界遺産登録を目指す目的は、文化財としての保護もあるが、世界遺産登録されることにより、住民にとっての自信と誇りをもってもらい、地域振興につなげていきたいという思いがあった。
- ◆ 登録については、2回の申請を経て登録となった。
- ◆ 無形の“信仰形態”というものをどう守っていくか、人口減少により消滅した集落をどう保存していくかが問題となった。
- ◆ 登録後の状況は、メリットとデメリットがあり、デメリットの一つである観光客の増加による景観の悪化については、景観条例を策定することで対応した。

説明後の質疑応答は、以下の通り。

Q こども達への教育にはどのように取り入れているか。

A 副読本を制作して渡しているが、現在、長崎全体で使える副教材を制作中。

Q 世界遺産への登録にあたり大変だった点は何か。

A 地元の皆さんから、信仰の場を観光資源にしてほしくないという意見を頂戴し、江上では反対の決議までされてしまった。その後、丁寧に対話を重ねていった結果、教会守を配置することになった。

(b) 添付資料に従い、以下のような説明を受けた。

- ◆ 五島市内のスポーツ団体は、練習相手が少ないため、対戦相手を求めて島の外に行かなくてはならなかった。また、学校の部活自体も少なくなってきたという問題点があった。そこで、新たな交流人口の核となるスポーツ大会やスポーツ合宿の誘致を始めた。
- ◆ 平成 23 年に、関係団体でスポーツ交流推進実行委員会を立ち上げ、合宿の誘致などを実施した。その結果、当初の参加人数は 576 人であったところ、昨年は 1939 人と過去最高を記録した。

説明後の質疑応答は、以下の通り。

Q スポーツ合宿誘致について、同様に実施している石垣島や宮古島との競合はないのか。

A それぞれの協会毎に合宿地の調整はしてもらっている。

Q MBX 等、新スポーツができるエリアの整備は考えているか。

A 競技人口が少ないので、現段階では検討していない。

※市役所における説明、質疑を行った後、競技施設の現地視察も行った。

(5) 所感

府中市も、約 1300 年前に武蔵国府が置かれていたという長い歴史もあり、府中本町駅横には国史跡武蔵国府跡を整備した。その活性化も課題となっており、今回世界遺産登録となった経緯、世界遺産となることについての市民の受け止め方なども参考となった。

また、本市は「スポーツタウン府中」を掲げており、今後は府中基地跡地にスポーツ関連施設の建設も見込まれる中、スポーツによる街の活性化について参考となった。

